

- ごあいさつ
- 届けたい「記者の思い」
- 会員募集のお知らせ
- 運営会議が開催されました
- 加盟大学の紹介
- 遠隔講義システムの『K³茶論』開催中！
- 第1回「FDフォーラム」を開催しました
- 編集後記

The Consortium of Higher Education in Shinshu

※「S-NET」は高等教育コンソーシアム信州の通称です。「S」はShinshu・Self-Study・Share・Scale・Socialを表し、「NET」は情報通信・教職員・学生間のネットワークを表します。

高等教育コンソーシアム信州事務局 〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学学務課内 電話：0263-37-2427 FAX：0263-36-3044 URL：http://www.c-snet.jp/ MAIL：office@c-snet.jp

ごあいさつ



高等教育コンソーシアム信州
会長
山沢 清人
(信州大学 学長)

このたび、高等教育コンソーシアム信州の会長をさせていただくことになりました。長野県内の全8大学が連携し、教育の全体的なレベルアップを図るという大きなプロジェクトに、改めて身の引き締まる思いです。それとともに、いずれも個性豊かな大学であり、各大学の特色ある教育研究のノウハウを共有して高め合えることに、大いに期待しています。

昨年秋に発足したこのコンソーシアムでは、遠隔講義の運用試験を兼ねた「K³茶論」が着々と回を重ね、10月からは寄附講義による遠隔講義もスタートしました。8大学が

連携してのFD活動についても、キックオフイベントとして11月にFDフォーラムが開催され、今後本格的に展開される予定です。

変化の激しい時代には、文系か理系かの二者択一ではなく、両者の知見を兼ね備えた、何事にも柔軟に対応できる人間性豊かな人材の育成が求められます。

コンソーシアムの8大学が連携することで、文系・理系のほぼ全ての分野をカバーすることができ、しかも東信・北信・中信・南信にバランスよく立地しています。お互いの個性を活かしながら、教育研究資源を有効活用して成果を還元していくことで、年々高まる地域の人材育成の要請に必ず応えられるものと信じています。皆様には、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

届けたい「記者の思い」



信濃毎日新聞編集局次長兼
松本本社報道部長
丸山 貢一

大学の教壇に立つという、冷や汗ものの体験をしたのは、10月30日のことでした。松本市の信州大学全学教育機構が開講している信濃毎日新聞社の寄付講義「新聞と私たちの社会」。その5回目、約100人の学生を前に、「記者の思い」というテーマで講義をしたのです。

信毎に入社して30年。初めての経験です。「高等教育コンソーシアム信州」の試験的な授業として、県内の他大学にも

配信されるとも聞き、緊張しました。しかも、新聞を定期購読し、読むことが習慣化している学生が少数という新聞離れの現実があり、何をどう伝えたらいいのか、迷いました。

思案の末に、「生身の記者の仕事ぶりを具体的に語ることで、思いをくみ取ってもらえれば」と割り切り、最近の事件の取材や過去、自分が携わった連載企画の舞台裏などのエピソードを話すことにしました。

例えば…。今春入社した記者は、松本市内で5月に起きた和菓子店強盗事件を発生直後から取材しました。ナイフを突きつけられた店主のおじいさんが、犯人になけなしの1000円を渡して「今日はこれで帰れ」と冷静に諭したエピソードを掘り起こし、記事にしました。発生日だけでなく翌日も再び現場に行き、おじいさんに話を聞く「ひと手間」かけた取材が「小さくても光る記事」に合った例でした。

介護問題を担当した記者は、認知症のお年寄りの取材を計画しま

した。しかし、実際に施設に行き、お年寄りと向き合うと、どんな言葉を発しているのか分からず、うつむいて座っているだけでした。それでも諦めず、10回ほど施設に通って、お年寄りの胸の内に触れる取材ができました…。

社会に何を伝えるのか、伝えることにどんな意味があるのか。人の悩みや痛みに共感しつつ、報道する意義や価値を日々探し続けている記者がいることを知ってほしい—。そんな願いも込めました。

講義を終えて1週間ほどたったある日、受講した学生のレポートのコピーが届きました。そこには、私の投げたボールを正面から受け止めてくれた学生たちの手書きの文字が並んでいました。

「新聞記者には良いイメージを持っていなかったけれど、事実を苦しみながら追い求める人間味ある記者の姿に共感できました」「情報はそのまま自分たちに届けばいいと思っていましたが、むしろ(記者の伝える)意志が含まれていてこそ、価値が出てくると考え直しました」「記者の思いが込められた記事が、読者の共感を呼び、新しい人のつながりを生むことが分かりました」

「格好のいい」記者像ばかりを強調し過ぎたのかもしれない、と反省もしています。ですが、ネットや携帯による情報入手が当たり前になっている今だからこそ、新聞の価値を再発見してほしいのです。

人間関係が希薄になり、1人ひとりが孤立するかなのような現代社会。そこで起きた事象を「ひとごと」として片付けず、世間に伝え、一緒に考えてもらおうという「お節介焼き」がいてもいいでしょう。これからの、そんな記者の思いを紙面に載せて、学生たちに届けたいと思っています。

会員募集のお知らせ

高等教育コンソーシアム信州の活動や事業を支援する会員になりませんか？本コンソーシアムでは、会員になっていただける団体、個人を募集しています。県内高等教育と地域の発展を目指す高等教育コンソーシアム信州の活動に、ご協力をお願いいたします。

詳しいお申し込み方法については、高等教育コンソーシアム信州事務局までお問い合わせください。

- 年会費 特別会員（長野県内地方公共団体）、
賛助会員（団体・個人）とも、1口1万円、1口以上

運営会議が開催されました

11月9日(月)、メルパルク長野(長野市)において、第4回高等教育コンソーシアム信州運営会議が開催されました。内容は次のとおりです。

- 【議題】 1.「高等教育コンソーシアム信州会則」の改正について
2.全国大学コンソーシアム協議会への参加について
3.戦略的大学連携支援事業の進捗状況について
4.平成23年度以降のコンソーシアム活動について 5. その他
- 【報告】 1.推進チーム会議報告について 2.第1回「FDフォーラム」について
3.第7回『K³茶論』開催について
4.遠隔システムを利用した合同業界研究会(就職説明会)の試行について

加盟大学の紹介

高等教育コンソーシアム信州に加盟する、長野県内の個性豊かな8つの高等教育機関(信州大学、長野県看護大学、佐久大学、諏訪東京理科大学、清泉女学院大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学)の中から、毎号2大学ずつ、特色ある活動や取組をご紹介します。

諏訪東京理科大学

〒391-0292 長野県茅野市豊平5000-1 TEL:0266-73-1201(代表) URL:<http://www.suwa.tus.ac.jp/>



諏訪東京理科大学は、古くから時計やカメラなど精密機械工業の集積地であり、世界有数の技術を持った中小企業を有する諏訪地域に2002年開学しました。このような地域の特色を踏まえて、システム工学部と経営情報学部の2学部体制を構築し、『工学と経営学の融合教育』を推進しています。

融合教育は4つの必修科目を中心に構成されています。1年次に

開講される「フレッシュマンゼミ」は、高校までの受身の学習から、自ら課題を見つけ解決していく主体的な学びへの転換を図ることが目的です。3学科で混成グループを作り、調査研究や討論、発表などを行うことで、チームワークの重要性を学びます。

3年次に開設される「総合演習」は、融合教育の総仕上げともいうべきものです。学生8名程度で3学科混成チームを編成し、「自然環境保全」「ICTの活用」など、地域の社会的なテーマについて、グループごとに独自のアイデア創出に取り組みます。学生は所属学科に即した能力を發揮しながら、技術的な解決方法や実際のマネジメントについて考えていきます。

諏訪東京理科大学は激変する経済環境に的確に対応できる人材を育成し、地域に貢献できる大学として発展していくことを目指しています。

清泉女学院大学

〒381-0085 長野県長野市上野2-120-8 TEL:026-295-5665(代表) URL:<http://www.seisen-jc.jp>



清泉女学院大学人間学部心理コミュニケーション学科はキリスト教の理念に立って「共生のこころ」を掲げ、「かかわり」「いたわり」をキーワードとして、心理のメカニズムを文化とのかかわりの中でとらえながら、現代社会の抱える様々な「こころの問題」に正面から取り組み、問題の解決に立ち向かえる人材の育成を目指しています。

「学習チューター」は、その目標を地域との繋がりの中で具現することを目指す、多岐に渡るボランティア活動の中のひとつの取り組みであり、学生達が地域の小中学校に出向き、子どもたちの放課後学習、クラブ活動、特別支援学級等の援助

を行っています。このプログラムには、教員免許取得を志す学生ばかりではなく、広く心理学を学んだ学生達が「発達・学校臨床の実際」等の授業による事前訓練を受けた上で参加し、勉強の指導だけではなく、子ども達の生活や活動に寄り添うことによって、学校での生活に困難を感じている子ども達を様々な角度からサポートしています。

本プログラムは、長野市が平成17年度から実施した「学力向上支援事業」に信州大学が「新教育システム開発プログラム」の一環として参加することになった際、本学も加わって開始したのですが、好評を得て、年々、支援を希望する小中学校が増加しています。

参加した学生達にとっては、人間の心に関わる問題の解決は、難しさを抱える人々に、まず寄り添い、共に歩くことから始まることを、体験を通じて理解する得がたい学びの場となっています。

遠隔講義システムの『K³茶論』開催中！

高等教育コンソーシアム信州では、加盟大学間の交流を目的とした『K³茶論(K・スリー・サロン)』を定期的に開催しています。これは、毎回異なる講師の方をお招きし、遠隔講義システムを活用して、自由なテーマのもと参加者同士で楽しくトークをする、という気軽なスタイルの『茶論(サロン)』です。聴講者としてはもちろん、講師としても、どなたでも無料でご参加いただくことができます。ぜひ一度足をお運びください。

次回開催は12月3日(木)です。多くの方のご参加をお待ちしております。

※講師希望の方(大学教員、大学生、企業人等)も随時募集中です。ご希望の方は担当(森下)までご連絡ください。

TEL:0263-37-2956(直通) MAIL:morisita@shinshu-u.ac.jp

※過去のK³茶論の講演をご覧いただくことができます。HPはこちら
⇒<http://www.c-snet.jp/k3/>

■第8回 平成21年12月3日(木) 16:30~18:00(90分)

「信州大学における多読授業支援システムの紹介

一楽しく読めば英語力が上がる!」

講師 信州大学ERS開発チーム

■第9回 平成22年1月14日(木) 16:30~18:30(120分)

「セキュリティセミナー」

講師 株式会社アークン 代表取締役 渡部章

■第10回 平成22年1月21日(木) 16:30~18:00(90分)

「歯・健康・スポーツ」

講師 松本歯科大学口腔診断科 教授 鷹股哲也

各回の会場 高等教育コンソーシアム信州 加盟各大学 遠隔講義室

※『K³』は、「高等教育交流(Koutou Kyouiku Kouryu)」の略称です。

第1回「FDフォーラム」を開催しました

11月7日(土)午後2時より、信州大学全学教育機構40番教室において、高等教育コンソーシアム信州によるFD活動キックオフイベント、第1回「FDフォーラム」が開催されました。

県内大学を始めとする県内外の大学教職員約50名が参加し、今後の高等教育コンソーシアム信州における、大学連携によるFD活動の方向性を参加者とともに考える日となりました。

第1部 コンソーシアムFD活動報告

1. 高等教育ネットワーク「高等教育コンソーシアム信州」について
松岡幸司(信州大学)
2. FD-SDネットワーク「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)」について
宮田政徳(徳島大学)
3. 広域FDネットワーク「FDネットワークつばさ」について
杉原真晃(山形大学)

第2部 パネルディスカッション「大学連携によるFD活動を考える」

司会者:矢部正之(信州大学)

パネラー:宮田政徳(徳島大学)、杉原真晃(山形大学)、松岡幸司(信州大学)

■第2回「FDフォーラム」開催のお知らせ

12月17日(木)、「リメディアル教育の必要性和現状」をテーマに、第2回「FDフォーラム」を開催します。

日時 12月17日(木) 17:00~18:30

テーマ 「リメディアル教育の必要性和現状」

講師 放送大学客員教授・昭和大学客員教授 小野博

メイン会場 松本歯科大学203教室

遠隔会場 高等教育コンソーシアム信州 加盟各大学 遠隔講義室

編集後記

この1年を振り返ってみると、GPフォーラムやFDフォーラムの開催、「K³茶論」の定例開催、遠隔講義のプレ運用、「S-NET NEWSLETTER」の発行など、県内大学関係者を始め多くの方々にご協力をいただきました。本当にありがとうございました。来年は、コンソーシアムをより多くの方に知ってもらえるよう、大学連携をさらに発展させていきたいと思っております。来年もよろしくお願いたします!